

2024年12月5日

## 新千歳空港にてアバターロボットを活用した案内と多言語対応の実証を実施します



ANAホールディングス発のスタートアップであるavatarin株式会社（代表取締役CEO：深堀 昂、以下「avatarin(株)」）は、ソニーワイヤレスコミュニケーションズ株式会社（代表取締役社長：大津 康治、以下「SWC」）が採択された総務省の「令和6年地域デジタル基盤活用推進事業（実証事業）」<sup>※1</sup>に参画し、北海道エアポート株式会社の協力のもと、新千歳空港を起点とした周辺地域の観光振興を空港業務の省力化と併せて実現する実証事業<sup>※2</sup>を行います。

本実証は、SWCのもと、avatarin(株)が独自開発したアバターロボット「newme（ニューミー）」と荷物運搬型の案内支援ロボットを用いて空港利用者を案内します。これにより、空港内の人材不足の課題を解消しつつサービスの品質、及び観光施策等の効果を高めることを目的としています。

### ◆実証概要

日時： 2024年12月10日(火)～16日(月)、2025年1月24日(金)～30日(木) 10:00～18:00  
※2024年12月12日(木)、2025年1月27日(月)は実施なし（予定）

アバター設置場所： 新千歳空港 連絡施設2階 国際線到着口周辺、ほか周辺各所（北海道千歳市）

アバター操作場所： avatarin(株)オフィス（東京都中央区）

実証内容：

- ・ローカル5Gを活用したアバターロボットの複数台同時稼働
- ・複数箇所に設置したアバターロボットを、複数のスタッフで運用して案内
- ・アバターロボットを活用した案内と多言語対応の両立で、空港業務の人手不足に対する検証

案内内容：

- ・空港内施設の案内、観光や2次交通の案内
- ・手荷物の搬送サポートと連携した遠隔案内業務

- ※1 令和6年地域デジタル基盤活用推進事業（実証事業）  
総務省では、「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、地方公共団体などによるデジタル技術を活用した地域課題解決の取組に対して、「地域デジタル基盤活用推進事業」を通じて総合的な支援を実施しています。（総務省報道資料より）  
[https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01ryutsu06\\_02000392.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu06_02000392.html)
- ※2 実証事業の全体概要は SWC のプレスリリースをご参照ください。  
<https://www.sonywc.co.jp/release/2024/20241205.html>

以上

#### ◆avatarinとは

人が、物理的に離れた場所にある、AIロボットなど別の存在に乗り移る（インする）こと。  
また、人類のさまざまな情報や能力も、その存在に搭載する（インする）こと。  
アバターインはサービス名であり、社名でもあり、  
「アバターインする」のように、動詞としても表現されます。

#### ◆avatarin株式会社とは

AIやロボティクスなどのテクノロジーを用いて困った人を助ける「世界最大の人助けネットワーク」の構築を目指している ANAホールディングス発のスタートアップです。

様々な業種のプロフェッショナルが持つスキルをAI化して共有できる世界共通のプラットフォームを構築し、そこに接続されたロボットやモビリティをはじめとした多種多様なデバイスに「アバターインする」ことで、だれもが、いつでも、どこでも助け合える世界となることを目指しています。

その世界の実現に向け、「遠隔からAI化」という独自の手法を用いてマルチモーダルAIを開発し、これを搭載するコミュニケーションAIロボット「newme（ニューミー）」やモバイルツールなどを活用して、「困っている人」と「プロフェッショナルのスキル」を繋ぎます。

<https://about.avatarin.com/>

#### ◆遠隔から AI 化

コミュニケーション AI ロボット「newme（ニューミー）」を遠隔操作して見て、聞いて、話して、動き回ってサービスを提供する過程で、個人が特定できないような形で映像や音声、制御などの複合的なデータ（マルチモーダルデータ）を同時に記録し、それを元に AI 学習を行うこと。

#### ◆コミュニケーション AI ロボット「newme（ニューミー）」

遠隔地を自由に動きまわり、自分の目で見て、話すことができる、コミュニケーションに特化したロボット。

#### ◆遠隔からお客様をサポートする接客 AI サービス「avatarin」

「遠隔から AI 化」という独自の手法を用いて開発されたコミュニケーションに特化した AI を活用し、人材不足が進む中、人と AI が共存できるまったく新しい接客ソリューション。

人とハイレベルな接客スキルを学習した AI を搭載したロボットとの共存により、ロボットが介在しながらも人のあたたかみのある接客をすることで、接客品質および接客オペレーションの維持・向上が図れます。

※AI 関連の機能およびサービスは開発中です